

平成 29 年度事業報告

はじめに

平成 29 年度の桑名市シルバー人材センター(以下「センター」という。)の業績は、会員数、総契約額とも前年度を下回る結果となりました。契約額では、平成 24 年度から 5 年間、毎年平均 3%ずつ上昇してきたものの、今年度は公共事業だけでなく、民間事業の契約額の減少が大きく響き、対前年度比マイナス 37,789,273 円となりました。要因の一つとして、就業する会員の高齢化による請負件数の減少など、仕事の依頼に対して会員を紹介できずに仕事を断る事例が増加していることが挙げられます。一方、会員数では、国による高齢者への働き方等雇用対策強化など、高齢者を取り巻く雇用環境は変化してきていますが、センター会員の粗入会率は 2.4%と若干落ち込んでいる状況です。これらの背景から、平成 29 年度末現在の会員数は 1,076 人、契約額 573,954,569 円となったところです。

今年度におけるセンター事業の普及啓発及び会員拡大の取組みについては、会員募集チラシの折り込み、求人情報誌へのチラシ掲載並びにハローワーク桑名での就業相談、さらには、市民向けシルバーセミナーの開催などにも取組みました。就業機会の確保・拡大の取組みでは、既存契約の確保・拡大を目的として、151 社への「年末ご愛顧訪問活動」の定着化を図り、新規ニーズの深掘りと契約継続の確認等、次年度に向けた就業確保と職域拡大に取組みました。特に、新規開拓及び職域拡大を図るため、シルバー派遣事業を積極的に提案するなど、25 社(32 業務)から新たな業務を受注することができました。

以下、平成 29 年度事業の取組みについて、当初事業実施計画を基に報告します。

1 事業の普及啓発活動と会員拡大

昨年度から新入会員が減少する中、シルバー事業を強化する上で事業の普及啓発及び会員拡大を重要な柱として役職員一丸となって取組みました。これまで取組んできた主要新聞への会員募集チラシの折り込み、昨年度から実施した会報誌新春号の市内全戸配布、市内各種イベントでの事業啓発などに加え、新たに、ハローワーク桑名での就業相談会の開催、市民向けシルバーセミナーの開催、役員による会員募集チラシのポスティングなどに取組みました。また、会員紹介による新入会員拡大報奨制度の運用により、多くの会員さんから紹介をいただいています。この結果、新入会員数は 140 人となり、前年度より 9 人の増となったところです。

① 主要新聞 4 紙への会員募集チラシの折り込みを 2 回実施したほか、前年度に引き

続いて会報誌 ORITURU の市内全戸配布の実施。また、求人情報誌への剪定・草刈などの業務を特定した会員募集の掲載を行いました。

- ② 商工会議所報等の各種機関誌、地域情報誌への広告宣伝の掲載及びくわな商工まつり等の市内各種イベントでの事業の啓発と入会案内を実施しました。
- ③ 新入会員拡大報奨制度による入会者の紹介をあらゆる場で会員に呼びかけました。結果、新入会員 140 人中、32 人、約 4 人に 1 人が会員紹介による入会者がありました。
- ④ 役員による会員募集チラシのポスティングを大山田地区において実施するとともに、寺町三八市での会員募集チラシの配布も行いました。
- ⑤ 新たな取組みとして、高齢者に関与する講師を招いての市民を対象としたシルバーセミナーを開催した後、シルバー事業の説明を行い、入会説明会へつなげました。
- ⑥ 昨年 7 月からハローワーク桑名との連携により、ハローワーク桑名会議室にて、毎月 1 回、高齢求職者を対象とした就業相談会を開催しました。

2 安全就業と会員の健康増進活動への取組み

平成 29 年度の事故件数は 18 件と、前年度 24 件より 6 件の減少となりました。この要因は、会員一人一人の安全意識の高揚と安全適正委員及び地区安全対策員を中心とした自主安全パトロールの定着化等による安全就業への組織的な取組み結果だとも言えます。内訳としては、草刈作業中の飛石事故が 5 件、荷物の運搬・カート整理中の事故が 4 件、自動車による事故が 3 件、作業中の蜂刺され事故が 3 件、その他 3 件という内容でした。

年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
事故件数	26 件	15 件	21 件	14 件	16 件	24 件	24 件	18 件

- ① 29 年度安全・適正就業強化月間では、7 月 5 日、7 日に安全適正委員及び地区安全対策員が 4 班に分かれ、剪定、草刈、民間作業現場などへの現場パトロールを実施しました。また、8 月から 12 月にかけても安全適正委員及び地区安全対策員が毎月 1 回、4 名程で、計 9 か所の剪定、草刈、除草作業現場での自主安全パトロールを実施し、安全意識の向上に取組みました。
- ② 安全適正委員及び地区安全対策員合同会議を 4 回開催し、事故発生状況を検証するとともに、再発防止に向けた取組を検討しました。その中でも、特に草刈作業中における飛石事故については、ここ数年増加傾向にある為、重点的に防止対策を検討し、自立式防護ネットの試作品を作り、現在実証テストを計画中です。
- ③ 安全就業に向けて、高齢者の健康維持・高齢者の交通事故防止をテーマに、28 年度以降の入会者と過去 2 年間に実施した安全研修未受講者を対象とした安全研修

会を 2 回に分けて実施しました。また、自動車安全運転講習会を長島自動車学校で開催し、運転業務に就業する会員を中心とした受講により、安全運転に向けての取組み機会としました。

- ④ 新たな安全標語「これぐらい ゆるむ心に ひそむ事故」を事務所入り口の壁面に掲出するとともに、会報誌 ORITURU や安全かわら版にも掲載を行いました。また、会員から提出されたヒヤリハット体験事例も同様に会報誌 ORITURU や安全かわら版に掲載するなど、安全就業への啓発に努めました。
- ⑤ 安全かわら版に健診の受診勧奨、各種健康情報などを掲載し、会員へ健康増進に向けた情報を提供しました。

3 就業機会の確保・拡大とシルバー派遣事業の取組強化

今年度は新入会員が減少する中、センターには多数の仕事の注文をいただいております。しかし、その注文に対して、適正な人材不足により就業機会の増大に至っていない現状であります。就業開拓委員会では既存就業先への訪問による要望等の把握とともに、会員へのアンケート調査実施による就業機会の確保・拡大に努めました。

- ① 年末に就業開拓委員会委員とセンター職員による既存の就業先 151 社を対象に「年末ご愛顧訪問活動」を行いました。訪問する中で年末のお礼と要望等を把握するためのアンケートを実施し、その結果、約 9 割の就業先から「満足」との回答をいただきました。満足の理由として 7 割の就業先から「仕事が真面目、丁寧」とのご意見をいただいております。
- ② 職員による担当の既存就業先への定期的な訪問により、就業先からの要望等の把握及び会員の就業状況の把握に努めました。
- ③ 会員の就業状況等を把握し、今後における事業運営の参考とするため、会員へのアンケートを実施しました。質問内容は入会の目的、動機、仕事について、地域活動について、安全就業についてなどでしたが、5 年前のアンケート結果とは社会環境も変化しており、質問内容によっては回答も変化しています。「当センターに入会して良かったと思いますか」との質問では、87%の会員が「思う」との回答をいただきました。
- ④ 既存就業先への訪問により、就業先からの多様なニーズに応じた派遣契約の提案を行い、新たな業務を 12 件受注するとともに、前年度からの派遣契約提案を継続中の新規開拓ユーザー等から、短期契約を中心に 17 件受注することができました。また、適正就業に基づき、派遣契約への切替えが必要な請負・委任契約就業先への派遣契約再提案を強化したことにより、請負・委任契約から派遣契約への切換えを 3 件締結することができました。

4 組織機能の強化と会員・事務局の連携強化

役員及び会員で構成する就業開拓委員会、広報委員会、安全適正委員会、福祉事業開拓委員会の各専門委員会において、それぞれが所掌する事項における業務上の課題について、検討、対策等を行いました。また、各地区においては、会員同士の連帯意識の向上、地域社会への貢献を目的に地区役員を中心として地区懇談会、地区ボランティア等の活動が行われました。

一方、会員への情報伝達的手段として、奇数月に「事務局通信」を発行し、会員への迅速な情報伝達に努め、会員と事務局の連携強化を図ったところです。

- ① 各専門委員会では、既存発注先への訪問活動やアンケートの実施、ハローワークとの連携による会員拡大への取組、就業現場への安全自主パトロールの実施、新たな福祉事業への取組みなど、各委員会において、それぞれの業務上の課題に積極的に取組みました。
- ② 地区組織活動として、各地区単位での懇談会の開催や清掃ボランティア活動などの取組みが行われるとともに、10月のシルバーの日に関連した事業として、ブロック別での清掃ボランティア活動が行われました。一方、地区委員会においては、会員の地区組織活動への参加状況、地区役員のなり手不足などの課題について話し合われました。
- ③ 年6回、奇数月に事務局通信を発行し、会員へシルバー事業の活動状況、就業情報等を提供することにより、会員と事務局が情報を共有することに努めました。
- ④ 過去3年の間に新たに入会した会員を対象とした接遇研修の開催、運転業務に就業している会員等を対象とした自動車運転講習会等を開催し、会員の知識・技能・資質の向上に取組みました。

5 福祉事業の推進に向けた取組み

少子高齢社会が拡大する中、子育て分野、介護分野等における高齢者の活躍が期待されています。そこで、シルバー人材センターが実施する福祉・家事援助サービス等の福祉事業を市民に知っていただくため、ワンコインサービス等の新たな事業に取組みました。

また、子育て支援事業の一環として、放課後児童クラブ「学童シルバーなかよし」の安定的な事業運営に引き続き取組みました。

- ① 介護予防・日常生活支援サービス事業の一つとして市から受託している「えぷろんサービス」について、今年度は7件、就業延べ172日と、平成27年度の事業開始以降あまり伸びていない状況です。事業の普及啓発、就業会員の確保等、市と協議しながら改善を図っていく必要があります。

- ② 学童シルバーなかよしの運営については、年間 251 日開設し、利用児童数は年間平均で月 14 人でした。今後も児童に放課後における安全な場を提供し、児童の健全な育成を図ることに努めます。
- ③ 市民への福祉事業の周知及び福祉事業就業依頼のきっかけ作りを目的として、福祉事業開拓委員会を中心に新たな事業、ワンコインサービス事業に取り組みました。社会福祉協議会、地域包括支援センター等、関係機関にご協力いただき事業周知を図るとともに、会員への事業説明会を行い事業の推進を図っているところです。
- ④ 福祉・家事援助サービスの安定的な事業運営に向けて、女性会員の拡大、就業機会の拡大を図るため、女性会員を対象に「女性の会」を開催しました。会では、市職員による「えぷろんサービス」の紹介や女性会員による就業体験談、また、グループ討議を行い、福祉・家事援助サービス事業への理解を深めたところです。

6 安定的な事業運営に向けた財政基盤の確立

今年度、契約額が減少することとなり、それに伴って事務費収入も減少する事態となりました。事務費収入の減少は財政的にシルバー事業の運営に支障をきたし、事業によっては計画どおりに実施できないという中、支出の適正化に努め、事業を実施したところです。

- ① 配分金等の支払日を毎月 15 日から 26 日に変更したことにより、毎月の会員への配分金等の支払いに苦慮するという事態は解消されました。
- ② 昨年 7 月、役員三役が市長に決議文「「ニッポン一億総活躍プラン」を地域社会で実践するシルバー人材センターの決意と支援の要望」を手渡し、シルバー人材センターの現況等を説明するとともに、シルバー事業への支援の要請を行いました。

以上が活動の概要ですが、以降の会員の入会状況、業務実績等他の詳細資料を含めて平成 29 年度の事業報告とします。